

令和5年度自己評価結果報告書

学校名 湯梨浜町立東郷小学校

校長名 福田 早由里 印

1. 学校の教育目標

○人間性豊かな心と自ら考え正しく判断できる力を培い、心身ともに健やかでたくましい児童の育成

2. 重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

(1) 学ぶ意欲の向上と確かな学力の向上(学びの力づくり)

①「わかる授業」の保障

②主体的に学び、表現力を育てる授業づくり

(2) 支え合い高め合う人間関係づくり(豊かな心づくり)

①「わからない」と素直に言える学級づくり・集団づくり

②特別支援教育・生徒指導・教育相談による連携の徹底

(3) 健やかな体づくり(健康な体づくり)

①運動に親しみ、健康と体力の向上を目指した楽しく明るい生活づくり

②自他の命を守る力の育成(新型コロナウイルス対応、けが等の対応、交通安全等)

(4) 地域に根ざし開かれた学校づくり

①「ふるさと東郷」における体験活動・表現活動の充実

②地域人材活用により地域に学ぶ教育活動の充実

3. 評価項目の達成及び取組状況

◎「3・4」の評価結果の表示方法 A…十分達成されている B…達成されている

C…取り組まれているが、成果が十分でない D…取組が不十分である

| 評価項目           | 結果            | 成果と課題(自己評価表の【具体的方策】の検証)  |
|----------------|---------------|--|
| (1)<br>学びの力づくり | B<br><br>中間 C | <p>①ICT活用、家庭科を中心とした研究の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○[児童9:タブレットを使った学習はよくわかる 94.5%]の数値に表れていことから、ICT活用が日常化していると考えられる。</li> <li>○家庭科については2年目の研究であり、全国研究大会、中国四国大会の参加をはじめ、理論研修、授業研究会等を行った。教員が1人1回授業公開を行い、実践の積み上げを行った。</li> <li>○学習アンケートにおいて、「家庭科の学習で身につけたことを生かして、家庭でも実践してみようと思いますか」の数値が高くなっている。<br/>5年生 1回目87.8% 2回目97.6%<br/>6年生 1回目95.5% 2回目89.8%</li> <li>○表現力を付けるため、話形の提示や話す形態の工夫を行った。(ペア、トリオ、班)</li> <li>○[児童5:先生はわかりやすく教えてくれる 98.4%]、[保護者5:お子さんは、授業が分かりやすいと言っている 73.7%]の数値差の検証が必要である。</li> <li>○学校運営協議会、計画訪問等で児童が学習に集中していると委員さんから感想をいただいた。</li> <li>▲全国学力・学習状況調査の学力が全国を下回った。学力の定着、思考や表現力が求められる活用問題に慣れる方策が必要である。</li> <li>▲[児童12:家庭学習 学年×10+10分以上している 67.6%]が低い数値となっている。学校からの宿題は行っているが、自主的な学習はしていない。</li> <li>・今後、NRT 学力検査の結果をもとに学習理解状況を把握し、当該学年の内容の定着を行う。</li> </ul> <p>②遊び・体験・交流を効果的に取り入れたカリキュラムマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童の成長に必要な体験活動や、ゲストティーチャーを招いた学習を行うことが</li> </ul> |

(様式4)

|                |               |   |
|----------------|---------------|---|
|                |               | できた。  |
| (2)<br>豊かな心づくり | B<br><br>中間 B | <p>①学級経営の充実</p> <p>○[児童7:先生や友だちの話をしっかり聞いている96.9%][児童16:先生は私たちの話をよく聞いてくれる97.6%]などの数値が高く、学習規律の土台となる学級経営の成果が見られる。</p> <p>○Hyper-QUにおいて、1回目は要支援児童が6人だったが、2回目は、1人となった。学年で手立てを考え、取り組みを行ったことが有効であった。</p> <p>▲一部の児童が離席をしたり、担任に反抗的な態度を示したりするなどの行動が見られたが、全職員で関わりながら対応し、保護者と支援会議を行い、現在は落ち着きを取り戻しつつある。通常学級で支援が必要な児童の理解とともに、その児童を学級が受け入れる特別支援教育(インクルーシブ教育)の充実の必要を感じた。</p> <p>②いじめの早期発見をはじめ危機管理の充実</p> <p>○[児童1:学校に来るのが楽しい90.2%]と肯定的評価であった。</p> <p>○週に1回の終礼で気になる児童の状況を全職員で共有した。</p> <p>▲保護者の相談に迅速に対応できず、いじめ事案が大きくなった。迅速な「報連相」を徹底していくことが必要である。その後、職員研修(初動対応)を行い、児童や学級のささいな変化を見逃さないように努めることや組織的な対応に心がけている。</p> <p>▲不登校の児童が4人いる。家庭と学校とが連絡を取り合い、学校行事や学習内容によっては参加できる日もある。今後も教育相談等の不登校対策が必要である。</p> |
| (3)<br>健康な体づくり | B<br><br>中間 B | <p>①年間をとおした取り組み 業間運動、陸上クラブ</p> <p>○可能な限り実施に努めた。</p> <p>○運動委員会が運動イベントを開催し、体を動かす機会を作った。<br/>・6月ドッチビー大会、10月リレー大会、12月おにごっこ大会、1月大縄大会、2月ドッジボール大会</p> <p>○マラソン大会、なわとび大会を開催し、体力向上に取り組んだ。</p> <p>▲[児童26:天気の良い日は、休憩時間、外で遊んでいる74.0% 児童27:夜〇時までには寝ている79.6%]の項目が低かった。<br/>(低:9時、中:9時30分、高:10時)</p> <p>②「東郷小ガイド」によるゲーム・寝る時間等の目安の普及</p> <p>▲[児童29:テレビ・ゲーム・スマホ・タブレットを使う時間を決め、それを守っている85.4%]と[保護者3:お子さんは、テレビ・ゲーム・スマホ・タブレットの時間を決め、それを守っている54.2%]の数値差の検証が必要である。</p>  |

(様式4)

|  |                        |  |
|--|------------------------|--|
| <p>(4)<br/>地域に根ざし<br/>開かれた学校<br/>づくり</p> | <p>A<br/><br/>中間 A</p> | <p>①参観日等の保障<br/>○計画どおり実施した。</p> <p>②ふるさと教育の充実<br/>○学習内容93項目、約400人のボランティアやゲストティーチャーに来ていただき、学習が深まった。<br/>○学習アンケートにおいて、「地域の方が学習に参加することにより、学びが深まると思いますか」の数値が高くなっている。<br/>5年生 1回目92.7% 2回目 97.5%<br/>6年生 1回目90.9% 2回目 96.0%</p> <p>③ボランティア活動の新規・継続<br/>○1年生のサツマイモ作り<br/>・うねづくり、苗植え、マルチ張り、収穫、やきいも大会にたくさんのボランティアさんに関わっていただいた。<br/>○3年の二十世紀梨学習<br/>・選果場見学、なしっこ館見学、地域の梨農家さんとの交流、千葉県松戸市立大橋小学校との交流など子どもたちの思いを実現するためにたくさんの方に関わっていただいた。<br/>○4年生の We Love とうごう<br/>・活動サポートメンバーとして、地域の方や保護者の方にたくさん協力していただき、学びを深めていくことができた。</p> |
|--|------------------------|--|

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

| 結果       | 理由  |
|----------|---|
| <p>B</p> | <p>(1)研究推進については、研究主任を中心に年間計画を作成し、1人1回学習公開、3部会(授業実践部、校内環境部、ふるさと教育部)で実践の積み上げを行った。<br/>学力の保障については、研究と繋がるのが理想であるが、難しい場合は他の対策を講じる必要がある。</p> <p>(2)生徒指導も危機管理ととらえ、体制が整いつつあるが、気になる児童・困り感のある児童の対応に課題が残った。今後は特別支援教育・生徒指導・教育相談による連携の徹底をする必要を感じた。</p> <p>(3)寝る時間・メディアの時間については、今後も保護者とともに徹底していきたい。</p> <p>(4)成長過程に必要な体験・交流、それに伴う安全の保障を、今後も地域やボランティアの力を借りながら継続・向上を図りたい。</p> |

#### 5. 今後取り組むべき課題

| 課題  | 具体的な取組方法  |
|---|---|
| <p>(1)基本的な生活習慣<br/>・家庭内での寝る時間・電子メディアの時間<br/>・家庭での学習時間</p> | <p>① 児童への周知・指導(全校・学年・学級で、GTによる情報モラル教育)<br/>② 保護者への周知・啓発(PTA総会、PTA講演会、学校だより、保健だより、学年・学級だより)<br/>③PTA保体部と共働した取り組み</p> |
| <p>(2)家庭科教育の推進</p>  | <p>①年間計画作成(各教科・領域の連携)<br/>②ふるさと教育との連携<br/>③保護者・地域との連携<br/>④交流活動の推進<br/>⑤効果的なICT活用</p>                               |
| <p>(3)いじめ、不登校、危機管理の徹底</p>                                 | <p>①初動対応の研修<br/>②特別支援教育・生徒指導・教育相談による連携の徹底<br/>③効果的なケース・支援会議、関係機関との連携</p>  |

(様式4)